



「人とのつながりに支えられて、
今日まで弓道が続けることが
できたと思います」

第19回熊本県弓道遠的大会一般女子の部で
優勝し平成25年度長洲町特別功労者表彰を受賞

しお た わ こう
塩田 和香さん（上町）

「弓道は見た目がカッコよくて始めたんです」そう言って笑顔を見せる塩田さん。7月14日、熊本市で行われた「第19回熊本県弓道遠的大会 一般女子の部」で初優勝に輝き、10月、町からスポーツ功労者に対して贈られる特別功労者表彰を受賞した。

塩田さんが優勝した競技は60m先にある直径1mの的に、4本ずつ5回（計20回）射的を行い、その的中数を競う競技だ。昨年は同大会で2位だった。優勝した瞬間は「自分の力を出し切って、昨年の自分に勝つことができた」と胸をなで下ろしたという。

塩田さんが弓道と出会ったのは高校1年生のとき。たまたま見かけた弓道の試合を見て「かっこいい」という印象から弓道部に入部した。

弓道の魅力は「自分を研ぎ澄ますことができるもの」と笑顔を見せる。「いかに自分自身に打ち克つことができるか、勝負はまさにほかの誰でもない、

自分自身。そこに魅力を感じています」。

個人競技である弓道。しかし、塩田さんは弓道にもう一つの魅力を感じている。それが「人とのつながり」だ。「中学生から上は90歳の高齢者まで、同じ土俵、同じルールで試合をするスポーツはそうありません。そういう意味で弓道は幅広くいろんな人と出会うことができます。それが弓道が続いている理由なのかもしれません」とほほえむ。今では人とのつながりは弓道以外にも広がり、中学校の相談員として教育現場にも携わりながらその輪を広げている。

人とのつながりから、人にはいろんな価値観があることを学び、人がもっと好きになったと話す塩田さん。しかし弓道は「まだまだこれから」と表情を引き締める。

これからも弓道への探究心を原動力に、人とのつながりに支えられながら、弓道の道を歩き続けていくことだろう。